

小学校	<p>【役割演技】</p> 	<p><input type="checkbox"/> その人物になりきって、どのような話をするか体験させる。</p> <p><input type="checkbox"/> 出だしの言葉を決める。</p> <p><input type="checkbox"/> 人物の挿絵を手を持たせて役割演技に取り組ませる。</p> <p><input type="checkbox"/> どちらの役にも取り組ませる。</p> <p><input type="checkbox"/> 他のペアと見せ合わせる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 演じることで、教材に書かれていない登場人物の気持ちや思いに気付いたり感じたりすることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 自分が演じた後に、友達が演じている様子を見ることで、違いに気付きやすい。</p>
	<p>【問い直し】</p> <p>「〇〇さんは、～と言ってるけど、みんなはどう思う？」</p>	<p><input type="checkbox"/> 教師の発問に対する児童の考えを全体に広げ、どのように思うかをほかの児童に尋ねる。</p> <p><input type="checkbox"/> 板書する（色や枠囲み、矢印などで児童生徒の考えの関連性を可視化する）。</p>	<p><input type="checkbox"/> 考えがまとまらない児童にとって、友達の考えを改めて聴くことで、自分の考えが明瞭になりやすい。</p>
中学校	<p>【板書】</p> 	<p><input type="checkbox"/> 場面を問う発問について視覚的に理解できるように挿絵や図を貼る。</p>	<p><input type="checkbox"/> 教材を視覚的にまとめることで、話し合いをスムーズに行うことができる。</p>
	<p>【スケーリング】</p> 	<p><input type="checkbox"/> 問いに対して、その時の自分の考えを数値化することで、自分自身の微妙な考えの違いを可視化させる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 可視化した自分の考えを基に、対話を深めることができる。</p>
	<p>【簡易ホワイトボード】</p> 	<p><input type="checkbox"/> スケーリング等を用いて、自分のそのときの考えを書き込み、互いに見せ合いながら交流させる。</p> <p><input type="checkbox"/> 交流での気づきや友達の意見を分類し、メモさせる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 互いの意見を交流しやすく、違いに気付きやすい。</p> <p><input type="checkbox"/> 交流での気づきや友達の意見をその場で簡単に書いたり、消したりすることができ、交流が円滑に進む。</p>

イ 児童生徒の対話を深めさせる手立てや発問

考えたことや感じたことを表出することで、自分自身の考えや思いが明確になります。そして、その上で他者と対話を行うと、考えが深まったり、感性が磨かれたりすることがあります。それは対話を行う者が、主体的に他者の考えを取り入れようと心を動かすからです。そこで、対話活動においても児童生徒が主体的になるように工夫をする必要があると考えます。本研究では二つの段階でそれぞれに考えられる手立てを以下のように考えました。

① 児童生徒が対話に入る前の段階

他者との対話に意義を感じたり、自分の考えの不確かさを認識したりすることができるように、児童生徒の対話に対する興味や関心を高めます。そのために四つの視点で以下のような手立てを考えました。

意図	視点	教師の問い掛けや声掛けの例(・) 手立ての例(※)
対話に対する興味や関心を高める	交流の目的をもたせる (高学年・中学生向け)	・何が違うのか見付けよう。 ・どうすればよかったのか話し合おう。 ・どちらがいいのか考えよう。 ・グループで一番を決めよう。
	やってみたい・面白そうと思わせる	・先生と一緒にやってみよう。 ※具体物(絵カード・簡易ホワイトボードなど)を使った活動を行う。
	疑問をもたせる	・これってどうなっているの。 ・この後、2人はどんなお話をしたのでしょうか。 ・どうして、こんなに違いがあると思いますか。
	自己表現が苦手な児童生徒の 苦手意識を弱める	・お手本を見せます。 ・このような流れで進めていきます(掲示して残す)。

② 児童生徒が対話を行っている段階

対話の中で他者の何気ない発言やつぶやき、問い掛けが児童生徒の心の琴線に触れることがあります。それを偶発的に待つだけではいけません。その間に児童生徒の対話への興味や関心が薄れていくからです。また、語彙に乏しい児童生徒の存在やグループのメンバーの人間関係も影響してきます。対話に向かわず、発表し合って終わることが多いのもそのためだと考えました。そこで、児童生徒が対話を行っている段階でも、教師は手立てを講じていく必要があると考えました。この段階では、二つの意図をもって発問を仕組みました。

意図	視点	教師の問い掛けや声掛けの例(・)
考えを深める 視点を与える	違いに気付かせる	・〇〇さんとどう違うの？ ・〇〇さんと同じってこと？
	根拠や理由を明確にさせる	・どうしてそう思うの。 ・それだったら、こっちの方がいいと思うけど。 ・何でみんな一緒にならないの？
	自分の立場をはっきりさせる	・それは、どのような立場の人の考え？

		<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんは、どちらの立場だったっけ？ ・どちらかというどどちらの立場になるの？
	人間理解を深めさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にでもできること？ ・いつも、その考えで大丈夫？ ・この場面でも同じことが言える？ ・先生は、そのようにうまくできないかもしれない。
	あやふやな考えに基準を与える	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの言う「〇〇」って、こういうこと？ ・その考えは、どちらの立場に近いの？
対話への興味 関心を 持続さ せる	明らかになりつつあることを認識させる	<ul style="list-style-type: none"> ・なるほど、ここまでは解決しているんだね。 ・みんな同じ意見なのは、どういうところかな。
	他のグループの考えを意識させる	<ul style="list-style-type: none"> ・向こうのグループでも同じように悩んでいたよ。 ・他のペアの役割演技も見てみよう。
	対話の有用性を感じさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・なるほど。するどい！ ・そこは、先生も気付かなかったなあ。 ・それだったら、分かるかも。 ・そんなところまで考えたんだね。すごい！
	話合いがもう終わったと思っているグループに、もう少し考えてみようと思わせる	<ul style="list-style-type: none"> ・それだったら、こんな問題点が出てくると思うけど、どうする？ ・その結論で大丈夫？

以上のような対話活動の途中で手立ては、児童生徒の発達の段階や対話への慣れなどによって変化します。低学年ほど教師が対話の中に入ることが必要だと考えます。このときに心掛けたいのは、教師が児童生徒と同じ目線に立つことです。つまり、児童生徒と共に考える姿勢や、他者との対話を楽しむ姿勢が大切だと考えました。そのような教師の姿や発言を手本に児童生徒は更に自分たちなりの対話の在り方をつくっていきます。教師が児童生徒と一緒に道徳的価値を探究しようとすることは、押し付け道徳や教示的な道徳から脱却することにつながります。教師は、答えを知っている者として児童の考えを誘導したり、良いことばかり言わせたりすることがないように気を付ける必要があります。

ウ 自己を問い直させる発問や、これからをイメージさせる手立て

対話そのものが目的ではありません。対話によって、自己の考えが深まったり、価値観が改まったりすることをねらって対話活動や交流活動に臨みます。そこで、授業の最後には必ず児童生徒個人の考えを導き出させます。それは、自己の考えの深まりを認識させるためです。また、価値について学んだことで、実生活や自分の人生がどうなるのかイメージをもたせることは、似たような場面に出会ったときに、主体的な判断に基づく適切な行為の選択をしたり、よりよく生きていこうとする道徳的実践をしたりすることにつながると考えます。しかしこれも、頭の中で考えるだけは、価値に関わる自分の生き方を明確にできず、何を学んだのか残りにくいので、ワークシートに記述させることにしました。このとき留意したのは、教材から離れるということです。教材を使って学んだことが、これからの自己の生活に結び付くように、次のような問い掛けをワ

ークシートの中や、授業の終末で行いました。

意図	教師の問い掛けや声掛けの例(・)
学んだこと・感じたことを意識させる	・△△をして、どんなことに気づきましたか？
	・どんなことが大切だと思いましたか？
	・どんなことが難しいと感じましたか？
	・〇〇するために必要なことは何だと思います？
	・今日の学習で学んだことは何ですか？
第三者的に自己を問い直させる。	・これから自分はどうなると思う？
	・最初の自分の考えと、どうして違うの？
	・そうすることで、どんな結果につながると思う？
当事者として決意をもたせる。	・これからどうしていきたい？
	・これからの自分には何が必要ですか？